

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00813

研究課題名(和文) 英語圏の外国語教育の目的・現状調査に基づく、英語と連携するフランス語教授法の構築

研究課題名(英文) Construction of French Didactics related to English, based on purposes and situations of foreign language education in English-speaking countries

研究代表者

中村 典子 (NAKAMURA, Noriko)

甲南大学・全学共通教育センター・教授

研究者番号：70299064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、英語圏の外国語教育の目的・現状調査に基づき、英語と連携するフランス語教授法の構築を目指す。英語圏での関連学会への参加、現地のフランス語教員へのインタビューなどを行い、国際研究集会を数回開催した。日本のフランス語教員約100人を対象として「学習者の英語の知識と連携するフランス語教授法の構築についてのアンケート」を実施し、分析した。学習者向けの「英語と連携するフランス語教授法」のサイト(Francais et Anglais - Comparons ces deux langues)の構築を開始し、フランス語の文と英語の文を対照的に示し、類似点と相違点について解説している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、日本の大学では第2外国語として学ぶフランス語を、英語と関連づける方法は推奨されてこなかった。だが、グローバル化が進み、学習者の英語の知識や英語運用能力と連携する「フランス語教授法」を構築する必要性があると感じている。「複言語教育」という観点からも、学習者が複数の言語でコミュニケーションを行い、隣接言語の相互理解を通じた「複文化教育」も求められる。フランス語教員約100人へのアンケートをもとに、学習者向けの「英語と連携するフランス語教授法」のサイト(Francais et Anglais - Comparons ces deux langues)を構築したので、今後、充実させる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to investigate the purposes and current status of foreign language teaching in English-speaking countries, and then to construct a French teaching method with English as a clue. We participated in academic conferences in English-speaking countries, interviewed local French teachers, and organized several international research conferences. We conducted a "Questionnaire on the Construction of a French Teaching Method that can be linked with Learners' Knowledge of English" for French teachers in Japan. We created a website for learners on "French teaching methods that can be linked to English" (Francais et Anglais - Comparons ces deux langues), contrasting French and English texts and explaining similarities and differences.

研究分野：外国語教育、複言語教育、複文化教育

キーワード：フランス語教育 フランス語教授法 複言語教育 英語圏の外国語教育 英語の知識の応用 French Didactics

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

21世紀における急速なグローバル化の中で、外国語運用能力の向上、積極的に外国語で発言し、ディスカッションする姿勢の養成が大学教育に求められている。経済面の国際競争のためだけでなく、観光やオリンピックのために日本を訪れる他国の人々や、労働力不足の日本に働きに来る人々と円滑なコミュニケーションを図るため、必要に応じて、英語、そのほかの言語で応対し、異なる言語文化圏の人々と協調して共生できる若者の育成が必須である。小学校からの早期英語教育の枠組みが整いつつある現在、日本の高校生・大学生の英語運用能力は今後、徐々に伸長すると予測される。そこで、学習者が第一外国語として長年学習してきた英語の知識や英語運用能力と連携するようなフランス語教授法の構築を考えている。そのためには、まず、英語圏（英国・米国・カナダ）における外国語（または第二言語）教育の目的・現状調査を実施し、実際の授業で使える教材を試作後、その有効性も検証したい。

なお、二つの言語の連携に関する理論としては、トロント大学の Jim Cummins (1979) が、母語と第二言語に関して「相互依存仮説」(Interdependence Hypothesis) を提示し、二つの言語が深層部分で共通する言語能力の領域を持つがゆえに、両言語に共通する言語能力をどちらか一方の言語によって高めることができると論じたことに依拠している。この理論を日本の学生が学ぶ二つの外国語、本課題の場合、英語とフランス語に適用して、両言語の運用能力がどう伸長するのかを把握しうる教材を目指したいという計画がある。

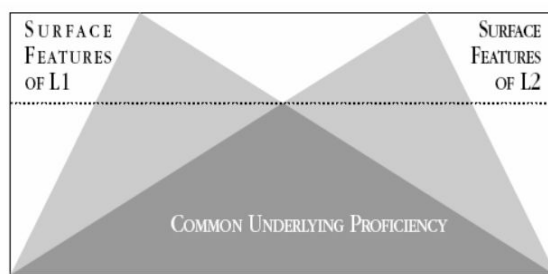


Figure 3. The Dual-Iceberg Representation of Bilingual Proficiency

(Cummins, 2005 より引用)

## 2. 研究の目的

本研究では、英語圏の外国語教育の目的・現状調査、とくに英語圏におけるフランス語教育に関して、その目的と達成目標、授業の様子などについて具体的に調査し、日本で活用できるような「英語と連携するフランス語教授法」を構築し、実際に教材を作成して、教授法と教材の有効性も検証することを考える。複言語教育、複文化教育という視点からも、言語の異なる人々と複数の言語で意見交換でき、グループのなかで必要に応じてコード・スイッチングができるだけでなく、相互理解を深めるための異文化間能力を備えた人材を養成する方法を検討する。

## 3. 研究の方法

英語圏の外国語教育の現状調査のために、研究代表者は英国のブリストルで開催された学会 (Association for French Language Studies Conference 2019) に参加し、英国におけるフランス語教育に関して、複数の英語母語話者にインタビューを実施した。また、カナダのオタワで開催された学会 (2019 International Conference on Task-Based Language Teaching) にも参加し、英語・フランス語の二言語使用が推奨されているバイリンガル都市オタワにおいて、カナダ連邦政府の公務員に求められる「英仏バイリンガル」の能力養成のための機関を訪ね、インタビューを行った。

2021年3月、日本フランス語教育学会 (Société Japonaise de Didactique du Français) などのメーリングリストを活用して、オンラインでのアンケートを実施した。日本語・フランス語の二言語で「学習者の英語の知識と連携しうる フランス語教授法 の構築についてのアンケート」という名称で実施したところ、約 100 人のフランス語教員からの貴重な回答を得た。回答教員の内訳は、日本語母語話者が3分の2、フランス語母語話者が3分の1であった。アンケートの集計、データ分析を行った後、質問項目間の相関関係等を調べ、共同研究論文を作成中である。このほか、定性調査として、フランス語教員への個別インタビューも実施した。

2000年以降のコロナ禍の影響で、英語圏のフランス語教育に関して現地調査はできなくなっ

たが、研究代表者が American Association of Teachers of French の大会にてオンラインで発表を行ったほか、国際研究集会やワークショップを複数回、オンラインまたはハイフレックス型で開催した。

学習者向けの「英語と連携するフランス語教授法」のサイト ( Francais et Anglais - Comparons ces deux langues ) を開設し、初級レベルから少しずつ構築している。今後、その有効性を検証したいと考えている。

#### 4. 研究成果

本研究課題と密接な繋がりがあるフランス語教育、複言語教育に関する雑誌論文は 8 件中 7 件であり、西山教行が「京都大学におけるフランス語教育の変遷と課題 1949 年から 21 世紀にいたるまで」(2022)、「Représentations du français à travers des rencontres postcoloniales」(2022)、「多言語とカリキュラム計画：複言語主義の観点から」(2021)、國枝孝弘が「外国語学習における相互文化教育を通したリフレクションと批判精神の育成について」(2019)、中村典子が「アクティブ・ラーニングの実践とその射程 外国語教育と言語文化教育の 2 つの側面から」(2022)、「英国における外国語としてのフランス語教育」(2021)、「Certaines différences interculturelles à respecter dans le cadre des exercices de communication en classe de FLE」(2020)を研究論文として発表した。

学会発表等は 36 件あり、そのうち 33 件が本研究課題に関係する。代表的な発表が、大木充の「CARAP (FREPA) と AI 時代に求められる教授法」(日本外国語教育推進機構 JACTFL の招聘講演、2021)や「日本における複言語・異文化間教育の社会的ニーズ」(第 37 回関西フランス語研究会、2023)である。

9 件ある図書のうち、共訳本 1 件を含め、フランス語教育に関連する図書は、西山・大木を中心に 7 件に上る (ただし、他の科研費の研究課題での研究を含む)。

主催した国際研究集会としては、2022 年 5 月、米国のフランス語教育の専門家 2 人を招聘した「L'enseignement du français langue étrangère aux États-Unis : Amérique合衆国におけるフランス語教育」(Zoom による)その後、2023 年 3 月、カナダの高校とアメリカの大学におけるフランス語教育の実地を知るための「北米の英語圏におけるフランス語教育をめぐって」(Zoom による)を開催した。アメリカやカナダのフランス語教育の現場からの声として得た情報は、アメリカもカナダも中学または高校から外国語としてのフランス語を学習していることが多いが、文法事項を特に取り出して教えることはなく、ましてや機械的に文法の練習問題を解くようなことは、ほとんどないらしい。その代わりに、学習者本人にかかわる日常生活の出来事などを写真や絵を使って、学習者本人に口頭あるいは文字にて説明させるのである。したがって、受験とか資格取得のための外国語という発想は皆無に思われる。アメリカの高校の教員たちによれば、フランス語は、スペイン語や中国語と履修者数を競う科目ではないらしい。というのも、生徒たちは、むしろ化学や物理の代わりに外国語科目を選択し、楽しく学んで目標言語でのコミュニケーション能力を伸ばしたいと望んでいるのである。英国の場合は少し異なるが、北米の英語母語話者にとっての外国語学習は、特に初級レベルにおいては「楽しみ」を伴う、コミュニケーション中心の授業でなくてはならないと感じられる。日本の大学での第二外国語の授業を学生たちがどのように感じているのか、今後、調査してみる必要がある。

また、2023 年 3 月の国際研究集会「複言語主義の多元性をめぐって La diversité et la pluralité du plurilinguisme」を共催し、國枝と中村で「他の言語を学ぶにあたって、学習者の持つ英語の知識はどのように活用できるか?」と題したワークショップを実施し、フランス語以外の外国語の担当教員からの意見も得ることができた。また、国際研究集会「複言語の横断性を考える」(2024)と公開研究会「CEFR2001, CEFR-CV と仲介, 複言語・複文化 日本語と外国語」(2024)の 2 つを共催した。

学習者向けの「英語と連携するフランス語教授法」のサイト ( Francais et Anglais - Comparons ces deux langues ) は少しずつ構築中であり、同一場面で用いるフランス語の文と英語の文を対照的に示し、共通点と相違点についての解説を加えている。主として、初級学習者向けのコンテンツから公開しているが、今後、中級レベルまで展開する予定である。教材の有効性については、当該サイトを使用した学習者やフランス語教員からの意見を取り入れ、できる範囲で改善を図っていく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 西山 教行	4. 巻 5
2. 論文標題 京都大学におけるフランス語教育の変遷と課題 1949年から21世紀にいたるまで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都大学国際高等教育院紀要	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 NISHIYAMA Noriyuki	4. 巻 XXX
2. 論文標題 Representations du francais a travers des rencontres postcoloniales	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 L'ARCHE（明治大学大学院仏語仏文学研究会）	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 國枝 孝弘	4. 巻 -
2. 論文標題 声なき声と言葉・レシ・物語・文学の距離 ジョルジュ・ベレック、ニコル・ラビエール、イヴァン・ジャブロンカの喪失の過去を書く営み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『声のつながり1』声の主体による文化・社会構築研究会編	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村 典子	4. 巻 146
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングの実践とその射程ー外国語教育と言語文化教育の2つの側面からー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 甲南大学総合研究所 叢書	6. 最初と最後の頁 68 - 96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西山 教行	4. 巻 なし
2. 論文標題 多言語とカリキュラム計画: 複言語主義の観点から(招聘論文)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IUDICIUM Verlag 『多言語教育の意義とは? 外国語教育・学習研究に関する国際シンポジウム』	6. 最初と最後の頁 54-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 中村典子	4. 巻 25
2. 論文標題 英国における外国語としてのフランス語教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 甲南大学 国際言語文化センター紀要 言語と文化	6. 最初と最後の頁 161-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NAKAMURA Noriko	4. 巻 -
2. 論文標題 Certaines differences interculturelles a respecter dans le cadre des exercices de communication en classe de FLE	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 - online	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 國枝孝弘	4. 巻 Vol.19 No.2
2. 論文標題 外国語学習における相互文化教育を通したリフレクションと批判精神の育成について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 KEIO SFC JOURNAL	6. 最初と最後の頁 pp.176-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 中村典子
2. 発表標題 ジロドゥの戯曲『エレクトル』とサルトルの戯曲『蠅』の比較における考察
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会主催：レトリックとテロル ジロドゥ / サルトル / プランショ（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 共同発表、RENOUD Loic ルヌウ・ロイック, NAKAMURA Noriko 中村典子
2. 発表標題 Mise en commun et echanges : references bibliographiques sur les temps verbaux 動詞の時制に関する文献について、共有と交換を目指す
3. 学会等名 Journee Pedagogique de la langue francaise フランス語教授法研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 Comment interpreter la mediation dans les deux CECR ?
3. 学会等名 日本フランス語教育学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 Le VC-CECR(2020) traduit-il la philosophie du CECR (2001) ?
3. 学会等名 国際フランス語教授連合アジア太平洋委員会地域大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 EUは言語的多様性をどのように振興するか
3. 学会等名 九州大学EUセンター主催ジャン・モネ・シンポジウム「ヨーロッパ市民の育成と現在の到達点」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山教行
2. 発表標題 CEFR-CV は CEFR の継承か、篡奪か？
3. 学会等名 公開研究会「CEFR2001, CEFR-CV と仲介, 複言語・複文化 日本語と外国語 」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大木充
2. 発表標題 CEFR-CVの複言語・複文化能力 CARAP、Coste & Cavalli (2015) との比較
3. 学会等名 公開研究会「CEFR2001, CEFR-CVと仲介, 複言語・複文化 日本語と外国語 」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 國枝孝弘
2. 発表標題 『授業デザイン』と『文法教育』
3. 学会等名 琉球大学公開研究会「日本の外国語教育と文法教育」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 國枝孝弘
2. 発表標題 フランス現代小説における戦争体験の語りと話者『私』の関係について
3. 学会等名 声の主体による文化・社会構築研究会 公開シンポジウム「声の気配を聴く」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 仲介活動とダイバーシティ・マネジメントと複言語・異文化間教育
3. 学会等名 EFR, CEFR補遺版の仲介（媒介）活動と複言語・異文化間教育の接点－日本語と外国語－
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 日本における複言語・異文化間教育の社会的ニーズ
3. 学会等名 第37回関西フランス語研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 共同発表、國枝孝弘、パトリス・ルロワ
2. 発表標題 Sans manuel, suis-je perdu ?
3. 学会等名 第37回関西フランス語教育研究会
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 共同発表、中村典子、國枝孝弘
2. 発表標題 他の言語を学ぶにあたって、学習者の持つ英語の知識はどのように活用できるか？
3. 学会等名 国際研究集会2023「複言語主義の多元性をめぐって」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山 教行
2. 発表標題 大学の外国語教育の目的とその変遷
3. 学会等名 第53回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会(甲南大学)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西山 教行
2. 発表標題 アカデミーフランセーズの辞書によるフランス語の標準化と語彙の近代化
3. 学会等名 日本歴史言語学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noriko NAKAMURA
2. 発表標題 La creativite et l' autonomie dans le cadre des exercices de communication en classe de FLE
3. 学会等名 AATF Convention 2021(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 CARAP(FREPA)とAI時代に求められる教授法
3. 学会等名 日本外国語教育推進機構(JACTFL)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 英語は、コミュニケーションの道具としての教育に徹し、複言語主義教育は、それ以外の外国語にまかせなさい
3. 学会等名 「ヨーロッパ言語共通参照枠」に関する批判的言説の学説史的考察研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 AI時代の教授法ー必要なのはどんな教授法か
3. 学会等名 大木科研公開研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 國枝 孝弘
2. 発表標題 声と言葉・物語・文学の距離ー喪失を書く現代フランス作家のいくつかの事例からー
3. 学会等名 第三回 声の主体による文化・社会構築研究会ー声のつながり研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 CEFR再入門と再評価：CEFRに関する45の質問にすべてお答えします
3. 学会等名 国際研究会「ひとつの言語教育から複数の言語教育へ：CEFRからみた日本語、英語、外国語教育の連携と協働」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 文法編：『グランメールアクティブ』Grammaire active du francais』の著者による 教材の紹介、使用法の紹介、使用者との意見交換
3. 学会等名 オンライン授業対応文法教科書についてのWorkshop
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山 教行
2. 発表標題 ポートフォリオ・複言語編：『グランメールアクティブ』Grammaire active du francais』の著者による 教材の紹介、使用法の紹介、使用者との意見交換
3. 学会等名 オンライン授業対応文法教科書についてのWorkshop
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山 教行
2. 発表標題 多言語とカリキュラム計画：複言語主義の観点から
3. 学会等名 ゲーテ・インスティトゥート東京、ドイツ学術交流会（DAAD）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國枝孝弘
2. 発表標題 文法と表現－女性名詞とécriture inclusiveから考える
3. 学会等名 東京お茶の水 アテネフランセ「文法の日」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NAKAMURA Noriko
2. 発表標題 Certaines differences interculturelles a respecter dans le cadre des exercices de communication en classe de FLE
3. 学会等名 Colloque international conjoint 2019 a l'Universite Nationale de Mongolie (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NISHIYAMA Noriyuki
2. 発表標題 Pour une philosophie du plurilinguisme dans l'Asie-Pacifique
3. 学会等名 Colloque international conjoint 2019 a l'Universite Nationale de Mongolie (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KUNIEDA Takahiro
2. 発表標題 Reflexion et esprit critique a travers l'education interculturelle
3. 学会等名 8eme congres international de l'association Education et diversite linguistique et culturelle, Lisbonne (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NISHIYAMA Noriyuki
2. 発表標題 Rencontre avec le francais comme experience postcoloniale
3. 学会等名 Institut universitaire d'Enseignement du Francais langue etrangere (IEFE) a l'universite Paul Valery (Montpellier 3) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NISHIYAMA Noriyuki
2. 発表標題 Comment sensibiliser la diversite linguistique et culturelle en faveur de l'enseignement / apprentissage du francais ?
3. 学会等名 Xlle Forum francophone du pacifique (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NISHIYAMA Noriyuki
2. 発表標題 L'interculturel dans la societe japonaise, d'hier et d'aujourd'hui
3. 学会等名 cours de licence de semiologie de Elatiana Razafi (universite de la Nouvelle Caledonie) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 CEFR一般とその増補版で明らかになったことについて
3. 学会等名 文化庁 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大木 充
2. 発表標題 CEFRの評価水準「共通参照レベル」と新しい展開「仲介」
3. 学会等名 明治学院大学（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西山 教行
2. 発表標題 複言語主義のアプローチによるフランス語教育
3. 学会等名 北海道大学国際シンポジウム「アジア多層言語社会と複言語主義」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山 教行、國枝 孝弘、平松 尚子
2. 発表標題 ヨーロッパ：多言語世界の歴史と現在を知る
3. 学会等名 日本フランス語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山 教行、國枝 孝弘、平松 尚子
2. 発表標題 ヨーロッパの言語文化をどのように教えるか、どのように学ぶか
3. 学会等名 フランス語教授法研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 西山教行, ジャンフランソワ・グラジアニ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 NHKテキストラジオ まいにちフランス語 応用編「フランコフォニーとは何か」	

1. 著者名 Cynthia Eid, Judith Patouma, Nishiyama Noriyuki, Oyama Mayo et alii	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Cle International	5. 総ページ数 400
3. 書名 Plurilinguisme et pluriculturalisme - Techniques et pratiques de classe -	

1. 著者名 西山教行・大木充・大山万容ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 複言語教育の探求と実践	

1. 著者名 西山教行・大山万容ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 多言語化する学校と複言語教育－移民の子どもたちの教育支援を考える	

1. 著者名 西山教行・高田博行・田中牧郎・堀田隆一編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大修館書	5. 総ページ数 256
3. 書名 言語の標準化を考えるー日中英独仏「対照言語史」の試み	

1. 著者名 西山 教行、大木 充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 CEFRの理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト	

1. 著者名 西山 教行、大木 充	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 CEFRの理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト	

1. 著者名 大山 万容、清田 淳子、西山 教行	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 多言語化する学校と複言語教育	



1. 著者名 クロード・トリュショ著、西山教行・國枝孝弘・平松尚子訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 多言語世界ヨーロッパ 歴史・EU・多国籍企業・英語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西山 教行  (NISHIYAMA Noriyuki)  (30313498)	京都大学・人間・環境学研究所・教授   (14301)	
研究分担者	大木 充  (OHKI Mitsuru)  (60129947)	京都大学・人間・環境学研究所・名誉教授   (14301)	
研究分担者	國枝 孝弘  (KUNIEDA Takahiro)  (70286623)	慶應義塾大学・総合政策学部(藤沢)・教授   (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 L'enseignement du francais aux Etats-Unis	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 北米の英語圏におけるフランス語教育をめぐって	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 複言語教育の横断性を考える	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 公開研究会「CEFR2001, CEFR-CVと仲介, 複言語・複文化 日本語と外国語」	開催年 2024年～2024年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------